

プレストレストコンクリート工学会 春日昭夫副会長がフレシネートロフィーを受賞

著：半井 健一郎*1, 片 健一*2

プレストレストコンクリート工学会 春日昭夫副会長が、フレシネー協会よりフレシネートロフィー (1st Prize) を受賞した。同賞は、ユージン・フレシネーと同様に構造技術の発展に寄与した技術者に贈られる賞であり、春日副会長は欧州以外の技術者として初めての受賞者となった。受賞理由にもなった橋梁や、同氏がたずさわった海外への日本技術の発信などを紹介する。

今年で設立 70 周年を迎えたフランスのフレシネー協会が選定する「フレシネートロフィー 2013」の授賞式が 3 月 5 日にパリの Maison des Arts et Metiers (フランス国立工芸院) で行われ、当工学会の副会長である三井住友建設(株)の春日昭夫氏が 1st Prize を受賞した(写真 - 1)。

同賞は、20 世紀における建設分野の先駆者の 1 人である Eugène Freyssinet (ユージン・フレシネー) と同様に、構造技術の発展に寄与した技術者に名誉を称え、表彰することを目的として設立されたもので、新しい素材による革新的な技術発展や既存技術の応用による新規性の高い技術の実現などを審査の対象としている。2011 年に第 1 回の表彰が行われ、今回は第 2 回であった。春日氏のほか、1st Prize に 1 組、2nd Prize に 2 組、Grand Prize に 2 組が選ばれた(写真 - 2)。Grand Prize は今回から設けられ、功労章の位置づけのものである。



写真 - 1 受賞式の様子



写真 - 2 受賞者の集合写真 (フレシネー協会提供)

©Laurent Guichardon/Graphix-Images/Freyssinet

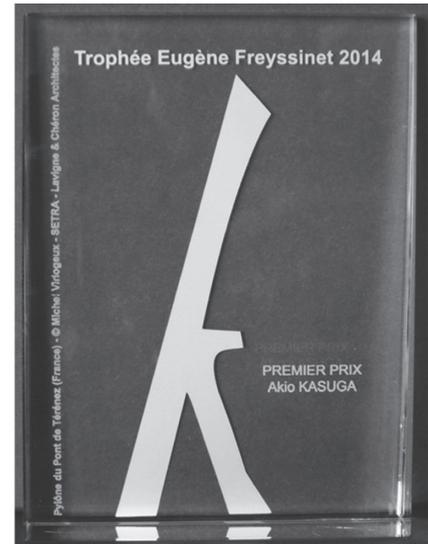


写真 - 3 賞状 (左) と楯 (右)

今回の選考では、春日副会長自身が開発・設計・施工にたずさわられた小田原ブルーウェイブリッジ（世界初のエクストラードーズド橋、1998 FIP 賞）や青雲橋（自旋式曲弦桁橋、2006 fib 最優秀賞）、寺迫ちょうちょ大橋（世界初のバタフライウェブ橋、2013 PC 工学会作品賞・土木学会田中賞）など多くの革新的な技術の実現が評価され、欧州以外から初の選出となった。授賞式では選考委員長である Michel Virlogeux 氏から春日副会長の功績が紹介され、VINCI 社 CEO の Jérôme Stubler 氏より賞状とガラスの楯が授与された。

春日副会長は、これ以外にも、所属する三井住友建設にて同社が米国の建設コンサルタント会社であるパーソンズ・プリンカー・ホフ社と結んだ米国初のエクストラードーズド橋の建設工事に関するアドバイザー契約業務に関して中心的役割を担うなど、日本の PC 技術を世界に向けて発信している先駆者である。

同氏の受賞により、日本の PC 技術の高さが欧州に広く知れ渡ることとなり、国内の技術者にとっては日本の技術に誇りをもつ格好の機会を与えてくださることになります。

最後に、ご本人より受賞の喜びと若手技術者に向けてのメッセージを頂きましたので、ご紹介いたします。

「ご本人のことば」

私が橋梁の世界に足を踏み入れてから今まで、日本が斜張橋、エクストラードーズド橋、複合橋、プレキャスト橋など新しい技術に取り組んできた時期と重なったおかげで、さまざまな経験を積む機会に恵まれました。その結果、今回の賞を受賞することができ、社内外の方々のおかげだと感謝しています。

日本が PC 技術をドイツ、フランスから導入して約 60 年になります。そして、日本の近年の技術革新の結果、日本はもはや彼らの生徒ではない時代に入っています。海外の方々と接していると、これからの日本が技術的なリーダーとして、世界の PC 技術をけん引するよう期待されていると、感じるのがよくあります。次世代の方々は、日本や世界の PC 技術の歴史をしっかりと認識するとともに、世界に役立つ技術とは何かを考えて、日本から大いに情報を発信していただきたいと考えます。

〔*1：半井 健一郎（広島大学大学院）
*2：片 健一（三井住友建設(株)）〕

【2014年8月25日受付】